

会をもって大きな活動を終了した。来年度以降も、会員相互の融和団結を図り、現職隊員とのつながりを広げつつ、各地慰霊祭で英霊に敬意を表し、講話等により安全保障関連の普及を図り、創立記念行事及び追悼式での現役支援に尽力する所存である。

懇親会参加者（既出者を除く）は、星野利秋（陸自59）、岡部榮（陸自62）、木村清順（陸自65）、相馬隆義（陸自75）、井上和男（同上）、鎌田順一朗（同上）、佐々木政弘（陸自76）、斗賀山信義（陸自86）、瀬田克己（陸自93）、北田勝一（陸自104）

陸自支援防衛講話を 青森県偕行会が主催

会長 稲村 孝司 陸自75

青森県偕行会は、明治37年第3軍が二〇三高地を占領した12月5日（木）、青森市県民福祉プラザ県民ホールにおいて、青森県偕行会主催防衛講話を開催した。

開催の趣旨は、令和6年4月から陸修偕行社となり、「安全保障に関する調査・研究・提言及び普及」が第一の目的となり、その事業として防衛講話の開催が主要事業として計画されたことから、同社の後援を受け、第9師団及び青森地方協力本部に対する協力として、同師団、地方協力本部の幹部自衛官及び上級陸曹に

対し、防衛講話を開催することとした。

開催にあたり、青森駐屯地修親会、青森地方協力本部、青森県隊友会及び青森県家族会の協賛を得ることとした。

講師は、令和4年8月まで9師団団長を務められた亀山慎二氏を迎えることとした。同氏は、師団長、旅団長及び戦車連隊長の指揮官職を務め、情報戦域として中央情報隊長兼ねて陸上総隊情報部長、陸幕運用支援・情報部情報課長及び同地域情報班長（旧調査2課2班・海外情報）を務められた。

講演は、平日のこともあり午後5時開始となり、講演5分前には師団長を最終者として、聴講者が青森駐屯地修親会員103名、最先任等上級陸曹24名を中心に、地方協力本部、隊友会、家族会及び偕行会の会員等24名の合計151名



の大人数となり席に着いた。

演題「我が国の周辺で起きていること（OBの雑感）」とされ、中国軍、北朝鮮、ロシア軍の状況、特に海空軍の活動状況を防衛白書及び統幕ホームページ等の公開資料を基に、過去から現在に至る変化を分かりやすく述べられた。我が国周辺の軍事情勢は、最も厳しい状況にあることが理解できた。



さらに、情報活動についても、平時からの体制・態勢の構築の必要性、情報の分析、評価の重要性を述べられた。

約1時間45分の講演が終わり質疑応答となった。第1の質問は「偽情報を見分けるコツは？」であり、回答は「私を知りたい」と冗談を交えて「情報の分析評価であり、裏付け、関連情報の収集など」と答えられた。第2の質問は「我が国の周辺諸国軍事情勢は最も厳しい状況と感しているが、中国、北朝鮮及びロシアはどの様に感じているのか？」であった。回答は「チャンスだと感じているで

しょう」とのことであった。最後の質問は「台湾有事生起の可能性は？」で、回答は「中国軍の意志と能力であるが、台湾侵攻の意志はあるだろうが、能力は未だ不十分だろう」であった。予定の2時間にはアツと言う間に終わり、第2部「懇親会」に移行した。

懇親会は、講師宿泊ホテル近傍の「竹林坊」で午後7時45分から始まった。同店は、郷土料理が評判の和食店である。

参加者は、講師を始め、師団長、副師団長、5普連長、業務隊長、協力本部長の主要指揮官、修親会監事、隊友会長及び家族会長等14名であった。開会のことばのあと、まず藤岡師団長による「亀山講師歓迎のことば」、引き続き野呂家族会会長の乾杯の発声、約30分の懇談の後、



全員からの一言、講演聴講の感想等が順次述べられた。2年前の師団長に「お帰りなさい」との挨拶もあり、講演内容に対する感想がユーモアを交えて語られた。終杯に代えて隊友会長が一本締めの後、閉会のことばとなった。

当会初の「陸自を支援する防衛講話」を終え、教訓となったことは、開催場所等の確保、パソコンの確保、演題・講師紹介等の看板制作であった。

第1の開催場所の確保については、8月末に陸自支援委員である元西方総監本松敬史氏より打診があり、「講師は元9師団長亀山慎一氏、時期は12月上旬、主催偕行会、後援公益財団法人陸修偕行社、協賛青森駐屯地修親会、公益社団法人隊友会、青森県隊友会、自衛隊家族会、青森県家族会」とするとの連絡を受けた。早速ホテル青森やアップルパレスなどの馴染みの会場に電話したものの、今年一杯満杯とのことで、青森市中心部の保護司会等の福祉関連施設「県民福祉プラザ（350名収容）」を確保した。講師の宿泊ホテルも馴染みのホテルは満室とのことで、家族会長及び隊友会長がホテル青森と調整してくれた。しかし同ホテル懇親会場は既に満杯で、近傍の「竹林坊」を確保した。

第2のパソコンの確保は、当初地方協力本部の部外広報用のパソコンを期待したが、部外者は、例え元師団長でもダメ

ですとのこと。困って当会事務局長に相談したところ、パワーポイントが入っているパソコンを準備できた。

第3の演題・講師紹介等の看板の制作は、「青森県偕行会主催防衛講話」の看板一枚でも、ホテルに依頼した場合は約2万円の費用となり、演題・講師紹介の看板と合わせると4万円となる。そもそも会場として使用しないホテルで制作してくれるかも心配された。会場となる県民福祉プラザにその機材はなく、青森地方協力本部が最近その機材を購入したとの情報を得て依頼したところ快諾を得た。

講演会の開催は、準備から実施、懇親会まで大変な事業であり、組織を編成して対応する必要があるとの助言を受けたが、偕行会員は県隊友会長でもある堀内会員、陸自75期の末永会員、田中会員が青森市在住であり、隊友会は東青支部長でもある外崎会員始め支部の会員、家族会も同様青森市内の会員の協力に加えて青森駐屯地修親会の絶大な支援を得て実現できた講演会であった。

宮城県偕行会防衛講話聴講と
現職隊員との意見交換会開催

宮城県偕行会事務局長 佐藤源一

宮城県偕行会（会長 石塚健15B特科）は、12月14日（土）仙台駐屯地防衛